

会 員 の 声

山 田 周 治*

資源・エネルギーの開発は、多種多様で開発のフェーズも長期にわたっているので本研究会を他の学会などと比較した場合、既存の学会とは多少異なっていたいくつかの特徴をもっている。

政治的な要素は抜きにしても経済的社会的な問題で、或るエネルギー源に対する評価が人によって必ずしも一致しない。ソフトエネルギー、ハードエネルギーの議論もその一例である。

しかし、エネルギー開発の課題は、未知のもの、世の中になくものを創造するといったイノベーションとは多少違って、すでに世の中にあるエネルギー源を如何にうまく利用するかということである。従って、単なる評論とか、統計的数字のみによる過大評価、非現実的な仮定の上にたった議論はもう間に合わない。あくまで実現させるといふ実感の伴った切迫感のある議論でなければならない。

純技術的な問題に限ってもエネルギー開発は、いわゆる数学、物理、化学……と言った恐らくすべての技術分野に関係している。この点では原子力学会と事情が似ている。つまり世の中のあらゆる技術の進歩革新をよく見極めて、これをエネルギーシステムに結集するというのがこの分野の研究開発に携わる人々の大きな役割の1つである。

さらに大きな特徴は、バウンダリの技術といおうか従来の技術分野の分類にはない谷間の技術、或は、いくつかの技術分野にまたがる技術が特に重要であるということである。

エレクトロメカ、或は、メカトロクスなどは今日ではすでに1つの技術分野と考えられるようになったが、これに類する技術が益々必要になってくる。

実現不可能とされていたアイデアが、或る技術の開発によって可能になるということも、エネルギー開発の分野では多く出てくると考えられる。

又、或る部門においてニーズのために開発された技術を今度はシーズとして他の分野へ応用するといった技術のトランスファーも、エネルギー開発には特に大切である。

最後に注意すべきはエネルギー開発の重点が地域によって違うということである。太陽熱利用、風力、地熱などはもちろんのこと、バイオマスなども米国のように広大な土地でそれ用の植物を栽培する国と、日本とでは全然考え方は違うだろうし、石炭利用もその産地によって、液化などのプラントも異なるといわれている。この点は特に海外との技術交流の際考慮すべきことである。

いずれにしても、資源・エネルギー源の多種多様性、広い技術分野、夫々の開発のフェーズの違い、膨大な情報量を考えるとき、これをうまく整理して、1つの学会誌のようなものにまとめることは至難のことであり、ややもすると或る特定の方向に偏る危険性もあるが、少くとも本誌が他の新聞雑誌、専門書に見られない特徴ある会誌として、出来るだけ多くの人達の意見を載せ、或は討論の場ともなって、読者に対してバランスのとれた広い視野でエネルギー問題を考えるための原動力となることを期待したい。

* 株式会社日立製作所エネルギー研究所 副所長